

石や砂を投げた	一・八
木に登ろうとして	一・五
子供同志おし合った	一・五
子供同志の過失による	一・五
釘が出ていた。オシピンでついた	一・四

右表のうち遊具に関連をもつては、ブランコ、遊動円木、二台、鉄棒、シーソー、トロッコ、大積木、幼児用二輪車の順となっているがこれは一応幼児の利用度の高い順と考えることが出来る。

すべてがの発生とその原因を分析する時殆んどが幼児の不注意と発生の動機となる環境に至らしめた教師の注意不足によるものにて不抗力的なもの全く無い事を知り、我々教師は自らを顧みて幼児保育の場に傑然として猛省を促される次第である。

### 九、発病の状況

表	百分比	三・四、三、七、一、四、二、二、四、八、五、七、四
分類	病名	嘔吐 発熱 頭痛 腹痛 気分不快 貧血

発病について特記しなければならぬ事は幼児のり病後全快し切らぬ内に登園した

者の場合が断然多く、これから発病という場合は稀なことである。

予後の場合は家庭の不注意によるものであるがこれ等については教師は家庭と連絡を密にして全治後登園する様仕向け特に第二類伝染病については単に一人の幼児の問題だけで済ませぬ事を悟らさねばならぬ。又保育中における子供の観察をよくし、特に視診という事に慎重を期して早期発見とこれが対策について万全をつくさなければならぬ。

紙数に限られて以上、子供に教えられ教えるという事の一片を述べたのであるがこれは何処迄も佐古幼稚園という環境の中における事実であって決してこれを以て至る処の総ての幼児であるとは思っていない。

然し我が園のこの生きた事實は今後における佐古幼稚園のよりよき環境構成に大いなる貢献をして呉れるものである事を確信する次第である。

本園では近年、園児数の激増による園舎狭隘の爲園地移転、園舎増改築という大きな仕事をかかえてその間、二部制保育、小

学校借用保育等の過程を経て現在も尚二百米をへだてた新旧両園舎に園児を二分して分園保育という恵まれざる環境ではあるが、その中に於て我等の周囲に充ち満ちているよき師、子供に学びて、理論に納得する教育を行う事は幼児に幸福をもたらす所以であるを信じて、教えられ教えるの日々をつづけ度いと念ずるものである。

(徳島市立佐古幼稚園)

### うれしい誕生祝

山口 菊代

当園は長崎市の中央に所在している関係上、保護者の職業は七〇%以上が商業である。

子供の環境が、こうした状態にあるので、不健康になり易い子供達を見つめて、

私は幼稚園に於ける教育方針を健康教育に力点をおいて研究している。よい性格も、明るい集団生活も、活潑な行動能力も個々の子どもの健康から生れ得るものと信じているからである。

幼児の健康増進の為には、色々な問題が考えられるが、私は二年前から幼稚園に於ける誕生日を健康面に主力を取り入れてみた。

誕生日に茶菓を供し、色々の催をして園内全部で、その月の子供達の誕生日を祝福する暖かい気持はうれしいが、本園の園児は、お菓子に食傷しているといっても過言ではない実情である。

お菓子のもつ甘い感性をそのまま失うことなく、そして健康を考慮し学校給食の精神にもついで、誕生日の方法を再検討して栄養食を与えることを考えて見た。一方商業地の家庭の家族構成には、殆ど使用人が含まれて居り、子供の食生活は使用人まかせといった場合が多い。又表面美食であるが、これがはたして発育期の幼児に適した食生活であるかどうかは疑問である。子

供の誕生を心から祝福し、その成長発展を祈る気持ちを幼稚園だけのものにするのではなく、保護者にも了解してもらって、共々に研究することが、もっとも有効かと考へ、P.T.Aと協力して昭和二十九年年度から実施した。然し私には栄養に関する知識がなかったが、幸にP.T.A副会長がお医者様で小学校の校医をしておられたので、その先生に相談してみたら、よい着眼だと言ふことで協力していただくことになり、私は勇気百倍して取りかゝったのであった。

施設や場所の関係上、主食は持参させ副食物供給として先づP.T.A予算に幼児一人十円宛の十二カ月分二二・八〇〇円を体育費の三五・〇〇〇円に追加計上した。その為消耗品費や雑費等は極力節約の線をとった。二十九年年度、三十年年度と二カ年継続して備品費三九・五三〇円をもって左の備品を整えた。

食器入戸棚	一	配膳台	一
計量器	一	食椀	二〇〇
皿	一七〇	小ボール	八
洗ボール	二	上ばけつ	五

大鍋	四	湯タンク	一
角盆	五	お玉杓子	一二
じゃが芋つぶし	四	飯しゃもじ	六
寒天流	四	ドーナツ型	二
まな板	五	食卓おおい	八
大根おろし	二	金網	一〇
ざる	六	さい箸	一〇

場所も狭く思うようには運ばない。備品も二カ年間の整備である為、始めの頃は随分困難した。或程度整備された今日から見ると、二十九年の四、五月の頃は逐われ勝で苦労は大きかった。保護者方も備品不足の頃はバケツ、庖丁持参となかなかの困難を突破して下さった。

毎月の献立は活水短大の栄養士の先生にお願いして、栄養素の分析、調理法の指導を受け、プリントして、それを全家庭に配布し、その内容を保護者に知らせることにした。又子供の好き嫌いや栄養に関心を払われた家庭からは、積極的に献立が提出されたこともあった。そうした献立は栄養士の先生にまわして検討して頂き、不足品を追加して頂いたりしたこともある。

調理方はその月の誕生者の母親が前々日集會して、その予定をきめ、諸準備をして当月早朝から出園して奉仕して下さった。

これはPTAの文化部会の一事業として進めたのであるが、講演会等には欠席勝のお母さん達も、子供の誕生のよろこびがあり、又作業が母親にも適した為か、仕事という責任からか、百パーセントの出席率を示したのであった。作業を通しての行事が、教育的によく理解されて実によい結果となつて、愉快であつた。調理が済むと各組への配膳に、給仕に、子供の食べ方の量調査の手伝いに、幼稚園の一日先生の実習を兼ねて、子供の食生活に対し、着眼が真剣であつた。食器の後始末、消毒等も全部おえて、試食を反省、更に園長との教育懇談、保護者相互の親睦等、なごやかな雰囲気の中に、幼稚園教育に対する理解と協力が、一段に効果的であつたことが、認められるに至つたのである。近頃では自分が当番でない時でも実習に参加させてほしいと自発的希望の人も見えてきた。献立表を見て実習前家庭で一度調理して見る人もあ

り、家庭の料理が余りにも主人本位に進められていたことを發見する人もあり、野菜の嫌いな子供の責任が大人の好き嫌いに原因している点を見出して驚くやら、バターやシバー等の使用範圍の少かつたことを見出したり、失敗を今一度家庭でやり直して見る人、泡雪寒にくず粉を使用することに疑問をいだいて質問する人、家庭の料理に取入れて家人の誕生日を祝う人、日々のお辨当についての反省、食べ残した子供には持帰らせて母親の参考資料に供するようにしては……の意見を出す人、幼稚園の誕生祝の主食にわざわざ小豆御飯をたいて持参させるやさしいお母さんも現われた。不足備品や適当な備品の研究、材料購入の方法研究等々、二十九年度は夢我夢中だつた。実習も三十年度には施設備品の整備と共に、科学的態度に着眼されてきたことは実にうれしく頼もしい姿である。家庭人の幼稚園への協力態度と批判検討ほど子供の成長に役立つものはないと思つた。

一方子供の食生活を見るとこれにも教育上色々の問題点が見出された。みんなが同

一食事である為めその食生活を通して、身体状況なり又好き嫌いの性質等の發見が容易にされ、教育資料を得る機会のできることは幸いに思われる。行動ののろい内向性の子供の食生活の低いもの、又のびのびした活気ある子供はおかわりをして食べる。好き嫌いのひどい子供はよりこのみの我儘をはつきり示し、又家庭での我儘が学校給食のおかげで是正され、うっかり食べ上げられてお母さんを驚かせるなど行動の上矯正されたところがよくわかる。

毎月食べ残す子や又反対にすっかり食べ上げる子などよく検討すれば、家庭で平生食生活に栄養的考慮を払つた家庭の子供は身体的虚弱さ神経質は幾分あつても学校給食に馴染むことも早く、又反面比較的考慮心に乏しい家庭の子はどうしても食生活に融和するところが稀釈になり勝である。そのような子は性格に暗さはないにしても行動に乱暴なところが多いようである。又身体發育の弱い子ほど学校給食はなかなか困難な様子に見受けられる。子供達には野菜の摂取がむづかしく、又人造バター等はむ

せ易い傾向に見受けられる。全体的統計から見て二十九年より三十年度が子供の食べ方は向上しており、一年を通じては四月は幼稚園生活不安定の様子が見受けられ、保育の最も山である二学期の食べ方は成績がよい。三学期は季節的關係で欠席等がある

為か一寸下る。いたわりの心遣いをする時期、最も活動的な時期と学校給食にも年間を通して保育の心が働かねばならないのは当然である。又栄養の目的のみでなく、子供の興味、よろこびの中に栄養を取り入れる保育法の精神は考えなければならぬ。

その一例に面白い珍現象も起った。十一月のけんちゃん汁の時一人の幼児がお休みしたので、放課後のっそり出園した。病気でないので淋しさに幼稚園にやって来て、自分で休園理由を白状してしまつた。原因は豚肉が大嫌いであるので、家庭でプリントを中に話会つたことで、けんちゃん汁を知り休園してしまつた。以後その子には、けんちゃん汁のニックネームが通用となつた笑話もあつた。

こうした実情から幼稚園の給食は一週間

ぶつ通しですべきでもない。然し子供の栄養問題は真剣に考えなければならぬ。それには保護者の目を開くことが一番大事なことである。

お菓子の多い子供の栄養を考えて出発した誕生祝に大きな大きな助力者を得たことは何よりの幸せであつた。又保護者間の融和も作業を通して出来たし、単に園内で自分の子どものみを見るのでもなく皆んなの子供に慈しみのまなざしを投げる態度もほほましい姿である。

二カ年のささやかな歩みであり、今後の研究問題は沢山残されているが、お菓子の多い子供達が甘い世界から一歩ぬけて科学性をもつた愛情の誕生祝へ進んだことは何かうれしい気持ちに包まれるのである。

(長崎市立長崎幼稚園長)

× × ×

“幼児期の基礎体力に関する継続研究と、幼稚園に於ける体育指導の在り方について。”

三 丸 喜久子

### (一) 研究の動機と種目。

幼稚園に於ける「健康」と云う教育内容を分析してみると消極的な養護の面と積極的な体育の面とに分けられるだろう。その中でも養護面はその内容の検討や指導法等も最近大分深く研究され実施されているようであるが積極的な体育面はどうであろうか。或程度リズム遊びと云う形で取あげられてはいるが果して之のみで幼児の身体的発達を助長するという体育的所期の目的を達し得るであろうか。子供の実態を眺めてみると非常に活動的であつてリズム遊びの様な比較的小さい動きの運動では満足でき